

Wish

世界の子どものために

vol. **77**

2025 年 9 月 号



日本ユニセフ協会「子どもの権利条約採択 30 周年ポスター」日本語訳：(公財) 日本ユニセフ協会

CONTENTS

2 特集 子どもの権利

3-5 EVENT REPORT 2025 ユニセフセミナー①②③
子どもの権利と「多様性」「ジェンダー」「地域社会」

6-7 活動ファイル
2025 年 6 月～8 月

8 お知らせ

特集 子どもの権利 2025 ユニセフセミナー ①～③

子どもの権利ってなに？

～「子どもの権利」を知り、考えよう！～

「子どもの権利条約」を日本が批准して 31 年。

いまだに社会に浸透しているとは言えません。

兵庫県ユニセフ協会は、「子どもの権利と〇〇」と題し、それぞれの立場で活躍する 3 人の講師をお迎えし、

すべての子どもがのびのびと自分らしく安心して成長できるように、

「子どもの権利」を知り、考えるセミナーを 3 回シリーズで開催しました。

※このセミナーシリーズは、神戸市教育委員会、神戸市教職員組合、コープこうべ第3地区本部の後援を受けて、神戸市教育会館で開催しました。

子どもの権利条約

1989 年に国際連合総会で満場一致で採択された「子どもの権利条約（児童の権利に関する条約）」は世界中すべての子どもが持っている人権と、国や人としての義務と責任を定めた国際的な約束で、ユニセフの活動基盤です。子どもを大人と同じように権利を持つ主体として認めるとともに、成長の過程にあって特別な保護や配慮が必要な子どもならではの権利も定めています。現在 196 の国と地域が締結する世界でもっとも広まった人権条約です。日本は 1994 年に「子どもの権利条約」を批准しました。条約を批准している国々は、国内での子どもの権利の履行状況に関する報告書を定期的に国連子どもの権利委員会に提出し、審査を受けます。日本の提出し

た報告書に基づき、2019 年に「子どもの虐待問題への対応強化」などの最終見解が公表されました。また 2020 年ユニセフは「レポートカード 16」で、貧困、教育格差、いじめ、虐待など、先進諸国や日本の子どもたちをめぐるさまざまな課題を報告、国会でも取り上げられ、その後の「こども家庭庁」発足とこども基本法成立の後押しにつながりました。

こども家庭庁発足、こども基本法施行

2023 年 4 月「こども家庭庁」が発足し、子ども政策の司令塔として「こどもまんか社会」の実現を目指す活動を開始。あわせて「こども基本法」が施行されました。

「子どもの権利条約」の精神を社会全体で実現するよう、まずは「知ること」から始めませんか。

子どもの権利の歴史

1920 年代前後	子どもの権利の保障を求める動きが世界各地で出てくる
1924	「ジュネーブ子どもの権利宣言」国際連盟総会で採択
1959	「児童の権利宣言」国連総会で採択
1989	「子どもの権利条約」国連総会で満場一致で採択
1994	日本が「子どもの権利条約」を批准
2000	「児童の売買、児童買春及び児童ポルノに関する選択議定書」、「武力紛争における児童の関与に関する選択議定書」を採択
2011	「個人通報手続きに関する選択議定書」を採択
2023	「こども家庭庁」発足、「こども基本法」施行

※「採択」は条約の内容に合意すること、「批准」は条約の内容を守ること国際的に宣言すること、「締結国」は条約を守ると表明した国のこと。

※参考「unicef news」283 号 2024 年秋（公財）日本ユニセフ協会発行

子どもの権利条約の 4 つの原則

4 つの原則は、子どもの権利条約の中で特に大切なものです。あらゆる子どもの権利の実現を考えるときに大切な「原則」として「こども基本法」にも取り入れられています。

6 命を守られ成長できること

（生命、生存及び発達に対する権利）

すべての子どもの命が守られ、能力を十分に伸ばして成長できるように、医療や教育、安全に暮らすための支援などを受けることが保障されます。

12 子どもが意味のある参加ができること

（子どもの意見の尊重）

子どもは自分に関係する事柄について自由に意見をあらわすことができ、おとなはその意見を子どもの発達に応じて十分に考慮します。



2 差別のないこと

（差別の禁止）

すべての子どもは、子ども自身や親の人種や国籍、性、意見、障がい、経済状況などどんな理由でも差別されず、条約の定めるすべての権利が保障されます。

3 子どもにとって最もよいこと

（子どもの最善の利益）

子どもに関することが決められ、行われるときは、「その子にとって最もよいことはなにか」を第一に考えます。



山本 真理子 さん

国際人道法研究者、ジャーナリスト

東京外国語大学学士、ケンブリッジ大学国際法学修士、ジュネーブ大学人道活動研究科修士。国連特派員協会元理事。NHK スペシャル等、協力多数。

2025 ユニセフセミナー①

子どもの権利と多様性

共に生きる ということ

「人の法」としての国際法の成り立ちという観点から見た子どもの権利条約の考え方と、子どもとして親として過ごした多くの国での体験から、多様性の時代にありのままを尊重しつつ共に生きていく知恵についてお話しいただきました。

山本さんはベルギーで生まれ育ち、平日はフランス語圏の学校、土曜日は日本人学校で両国の義務教育を受けました。また、母として4つの国での子育ても経験してきました。

さまざまなルーツを持つ人々が共に生きるには、自分の自由と相手の自由の両方を考え、連帯意識を持って社会に参加する市民となるための教育が必要となります。しかし最近では、無難に生きることがよしとされ、多様性や共感とは相容れない同調圧力或いは自己責任論といった「見えない膜」が連帯を阻むことがあります。それでは、子どもの権利条約もなかなか浸透しませ

山本さんは旧ユーゴスラビアの戦争犯罪の取材に携わったことから、人間の生命と尊厳を守る人道法の研究・共有を志すようになりました。被害者にも加害者にもなつてほしくない、微笑みあえる人間関係であることが一番という思いを持っています。

戦闘行為や戦争の手段に制限をかけ、犠牲者を保護することを目的とする国際人道法は19世紀末に誕生しました。実はその背景に、「レ・ミゼラブル」、「オ

リバー・ツイスト」、「アングル・トムの小屋」などの、弱い立場に置かれた人々の苦しみに焦点を当てた文学があったのです。その流れの中で1924年には「児童の権利に関するジュネーブ宣言」が国際連盟で採択され、そこには、人類は児童に対して最善のものを与えるべき義務を負う、と書かれています。その後国連憲章では人間の尊厳がさらに重視され、人権に関する諸条約が作られていきました。その一つが1989年に採択された「子どもの権利条約」で、子どもにはかけがえない子ども時代を生きる権利があるとされています。

ユネスコ憲章では真のリーダーは戦争をしない人とされ、知的協力で平和を構築するために教育が重要としています。文化や自然を引き継ぐ世界遺産もその活動の一つです。本を読むことは賢くなるためではなく、追体験を

増やし他者との接点を増やすため。例えば、伝記は子どもを多様性に気付かせる読み物としておすすめです。一方で、情報が多い中、子どもを暴力から守るのも大事です。

「共に生きる」とは自分と相手を認めて「概ね満足」することから始まります。大人が子どもを有能で頼もしい存在として認めることで、お互いの権利を守って信頼関係を作るという善の循環が起こります。特に乳幼児期の子どもと過ごすことは大人にとっても良い機会になります。無視しない、邪魔と言わない、あなたのせいと言わない、八つ当たりしない、けなさない、おだてない、やってはいけないことは丁寧に伝える、子どもの興味関心に寄り添い、前向きな毎日を過ごせるようにする、そうしたことが大切と山本さんは締めくくりました。

Voice/ 参加者の声

- 子どもの権利条約の循環型という点を初めて知りました。子どもを信じるということを実際の意味で大人ができるようになれば、より子どもの権利条約が普及していくだろうと思いました。
- 「戦争をしない人がリーダー」という言葉がありましたが、本当にその通りだと思います。そういう人がリーダーになってくれる世界になってほしいと思いました。

Data イベントデータ

日時 2025年4月26日(土)
参加者 50人



末吉 洋文さん

帝塚山大学法学部教授（国際法・平和学）奈良県男女共同参画審議会委員。

子どもの権利条約や人間の安全保障など難しいテーマをわかりやすく説明する。兵庫県ユニセフ協会でも2006年より「ユニセフ・ボランティア塾（ユニ・ボラ塾）」の講師として活躍中。

2025 ユニセフセミナー②

子どもの権利とジェンダー

『ジェンダーギャップ を考えるカルタ』 で学ぶ

世界のジェンダー × 日本のジェンダー

講師の末吉さんのゼミでは毎年、その年に流行っている話題とジェンダーについての問題を絡めて、『ジェンダーギャップを考えるカルタ』を制作しています。今回のユニセフセミナーでは、今年3月に作成された最新版のカルタを使って、楽しみながらジェンダーについて学びました。

Voice / 参加者の声

○ジェンダーについての理解を深めることができました。特にジェンダーの国際事情について詳しく知ることができ、国際社会全体で取り組まなければいけない問題だと再認識しました。それと同時に日本が国際社会で遅れていることも実感しました。

○ジェンダーについて女性だけが被害に遭っているかと思いますが、男性も被害に遭っていることもあと聞き、新たな視点で物事を考える大切さを学びました。

○末吉ゼミの学生さんたちが作ったカルタ、というのがいいなと思います。実際に今回学生さんにも来ていただき、先生と軽妙なやりとりから、和やかなゼミの雰囲気が伝わり、楽しい会でした。

日本のジェンダー格差は、2024年の「ジェンダーギャップ指数」（世界経済フォーラム発表）によると、146カ国中118位と低く、主要7カ国の

前半ではこのカルタが制作された背景と、これまでに制作された主だった札の内容について紹介

子どもたちがジェンダーに縛られることなく、自分らしくのびのびと成長していける社会を作るにはどうしていけばいいのか。無意識に持つ偏見を含め、現在のジェンダーについての問題を考えるために、この日のユニセフセミナーのテーマは「ジェンダーギャップを考える」。

「あ」「を」までの45枚の取り札を作っています。取り札の表側には読み札の言葉が表記されていて、裏側には内容についての詳しい説明を載せています。

ジェンダーとは生まれつきの体の違いではなく、「男性はこうあるべき」「女性はこうあるべき」といった社会的なイメージや役割のことを指します。また現在ではLGBTQなど、多様な性も存在します。このようにジェンダーに関する考え方は時代や環境によって大きく変わっていています。

中では最下位でした。特に国会議員や管理職の女性比率が低いことが順位を押し下げる要因となっています。SDGs（持続可能な開発目標）において、「ジェンダー平等の実現」は5番目の目標であり、非常に重要な目標です。



「これあるね」とカルタの言葉に納得する参加者

Data イベントデータ

日時 2025年5月31日（土）
参加者 34人

*ジェンダーギャップを考えるカルタは、下記URLからダウンロードできます。

<https://sueyoshi0.wixsite.com/tzk-peacestudies>



能島 裕介さん

尼崎市こども政策監、尼崎市学びと育ち研究所副所長、園田学園大学学長補佐・経営学部准教授。兵庫県神戸市に生まれ。関西学院大学在学中に阪神淡路大震災に被災した子どもたちの支援活動に従事。大学卒業後、銀行勤務を経て、NPO 法人プレーンヒューマニティー、公益社団法人チャンス・フォー・チルドレンなどの子どもたちのための団体を設立。

2025 ユニセフセミナー③

子どもの権利と地域社会

子どもの権利と地域社会

～尼崎の事例から～

こども政策監として、尼崎市のこども・若者の教育政策の全体を調整する仕事を担っている能島裕介さんに、子どもたちの声を積極的に活かしたまちづくりについてお聞きし、私たちにできることを考えました。

尼崎市は兵庫県で最も人口密度の高い中核都市です。近年、駅前再開発や交通の利便性向上により子育て世帯が増え活気ある地域社会が築かれています。

はじめに、能島さんは、前市長の稲村和美さんの「子どもの権利をしっかりと保障することが民主主義や市民自治につながっていく」という言葉と、現市長の松本真さんが尼崎市の教育長として実績を積み、こども・若者施策に力を入れていることを紹介しました。

2023年「こども基本法」が施行されました。現在尼崎市では、権利保障とウェルビーイングを中心に据えた「こども・若者総合計画」づくり、こども・若者が権利の主体であるという認識を市民に広げることに重点を置き、子どもの意見表明や施策への反映に取り組んでいます。

「あまがさき・ひと咲きプラザ」は、閉校した大学の建物と土地の譲渡を受け、子どもの学びや育ちを総合的に支援する施設として2019年に開設しました。「こどもの育ち支援センター」「こくしあ」棟は、不登校、発達障がい、虐待、いじめなどさまざまな課題や困難を抱える子どもたちを、保健・福祉・教育

などの部署の枠を超え専門的な知見を活かしてワンストップで支援。

「アマブラリ」と「あまぼーと」の2つの棟は「ユース交流センター」。「アマブラリ」には、「こどものための権利擁護委員会」、「尼崎市学びと育ちの研究所」を設置。「あまぼーと」には、ラウンジ、音楽室、ホールがあり、中高生や若者の居場所となっています。「ユース交流センター」は、子どもの権利、意見表明や意見反映に重要な役割を果たしています。

ここでは「ユースワーク」という若者支援の考え方を取り入れています。若者が主体的に社会と関わる力が育つように、若者の権利を尊重し、彼らの成長を支えるための取り組みを行っています。さらに、地域の若者たちの声を集めて行動につなげる「ユースカウンシル」という仕組みもあります。

運営スタッフやユースワーカーは、若者たちの中に自然に入って関係性を作り、サポートしています。

例えば、市内初の常設スケートボードパークが今年5月にオープンしました。運営するのは要望した当事者の若者の任意団体です。「スケートボードをする場所がないのでつくってほしい」という彼らの声をきっかけに、ユースワーカーのサポートを得て、行政や地元の人を巻き込み、社会実験、資金調達など難題を乗り越え約5年越しのスタート。この過程で若者たちは社会課題に向き合い、「声をあげれば社会は動く」という実感を得ることができました。

「支援される存在」としての若者の思いが変容して「主権者」として民主主義の担い手が育つ。若者の声を尼崎市の取り組みに反映させることが、将来の主権者を育てることになると信じていますと、能島さんは締めくくりました。

Voice / 参加者の声

○尼崎市の取り組みの「事実」に勇気づけられましたし、考えさせられましたし、宿題もいただいたような気持ちになりました。夏休みの初日から良い学びの機会をご用意くださいましたことに感謝申し上げます。

○ユース交流センターは、家の近くに欲しい施設ですね。子ども達が自分の意見を言ってもいい、それを聴いてくれる大人がいると実感できるのは、ほんとに素晴らしいことだと思います。この施策が尼崎から、阪神間へ、兵庫県、そして全国に広がって行くことを願います。

Data イベントデータ

日時 2025年7月19日(土)
参加者 36人

1 トライやる・ウィーク

日時 2025年6月2日(月)～6日(金)
参加者 神戸市立本庄中学校 中村心咲さん、
東野楓馬さん、松村知穂さん

今年も兵庫県ユニセフ協会へ中学2年生3人が体験学習にやってきました。学校外の社会活動を通して「生きる力」を育むことが目的のトライやるウィーク。事務室の清掃、外国コインの仕分け作業、図書のラベル貼付、ポスター制作、最終日の店頭募金等5日間多様なプログラムにチャレンジ。

3人は真摯に取り組み、貧困・戦争・差別など世界の子どもの実情と権利について学び、ユニセフ活動への理解を深めました。



Activities File 活動ファイル



兵庫県ユニセフ協会の活動履歴

2025年6月～8月

活動一覧

Activities List

学習会一覧

(0) オンライン開催

月日	訪問先	対象	人数
6月 5日	兵庫県太子町立太田小学校(0)	5年生	165
6月13日	からとコープ委員会	中学生・大人	13
7月14日	雲雀丘学園中学校・高等学校(宝塚市)	中3～高2 希望者	9
7月23日	神戸市立伊吹東小学校(0)	教職員	20
8月 2日	みんなのサマーセミナー2025(尼崎市)	小学生～大人	22
8月 7日	加西コープ委員会	大人	20
8月21日	コープこうべ大阪北地区サークルトライアングル(豊中市)	小学生～大人	10
8月26日	神戸市立好徳小学校	教職員	50
8月26日	あさひ児童館(神戸市西区)	小学1～6年生	83

地域活動一覧

* ブース出展

月日	イベント名
6月28日	2025国際理解講座②「南米ベネズエラの危機～拘束された子どもたちと子どもの権利」(神戸市中央区)
7月14～15日	永遠瑠マリルイズさん講演会(姫路市、神戸市須磨区、神戸市北区)
7月19日	2025ユニセフセミナー③「子どもの権利と地域社会～尼崎の事例から～」(神戸市中央区)
7月20日	ふたばZINEフェス2025(神戸市長田区) *

当協会所有のウクライナ写真パネル貸出 (玉本英子さん撮影)

5/21～6/18	久留米ユニセフ協会
7/21	茨城県ユニセフ協会
8/16～17	新日本婦人の会 西脇・多可支部
トライやる受入 6/2～6	神戸市立本庄中学校 2年生 3人
インターン受入 7/30～9/10	(うち5日間) 大手前大学 3年生 3人
フィールドワーク生受入 7/17	兵庫県立芦屋高校 3年生 5人

募金一覧

2025年4月～6月

学校・団体名
神戸市立吉田中学校、加西市立宇仁小学校、兵庫県立国際高等学校生徒会
ご協力ありがとうございました。(兵庫県ユニセフ協会関係分 敬称略、順不同)

2 ユニセフ全国協定地域組織 学習講師研修会

日時 2025年6月27日(金)
会場 ユニセフハウス(東京都港区)／オンライン

(公財)日本ユニセフ協会は、ユニセフ学習会講師として活動するボランティアを対象に毎年研修会をおこなっています。

学習講師研修会に参加して

ユニセフ教室「ユニセフと世界の子どもたち」の動画を視聴し、昨年までとの変更点を確認しました。また、低学年向けの模擬授業、「子どもの権利条約」を受講し、新型コロナウイルス禍を振り返り『脅かされた／脅かされている権利は?』をワークショップ形式で学びました。午後からのワールドカフェ方式で「支援物資・ユニセフ支援について」の知識を深め、学習講師として生かせる気づきを得ることが出来ました。(栗岡美穂)

3 尼崎「みんなのサマーセミナー」

日時 2025年8月2日(土)
場所 園田学園大学(尼崎市)

「みんなのサマーセミナー」はみんながセンセイ、みんながゼイトになるまちぐるみの「学校ごっこ」。2日間で330を超える授業を開催するイベントです。兵庫県ユニセフ協会では今年「なんでやねん!遊んで知ろう子どもの権利」として50分の授業を行いました。前半はユニセフボランティアが「子どもの権利」について説明、後半は参加者みんなで「なんでやねん!すごろく」で遊びながら、日々思っている「これってどうなん」「なんでやねん」と自分の思いを語り、「子どもは権利の主体である」ことを学びました。

4

2025 国際理解講座②

南米ベネズエラの危機

～拘束された子どもたちと子どもの権利



講 師 ネルソン・イスキエルドさん（会社員ボランティア）
坂口亜紀さん（アジア経済研究所主任研究員）

日 時 2025 年 6 月 28 日（土）

会 場 神戸市教育会館

参加者 40 人

後 援 神戸市教育委員会、神戸市教職員組合、
コープこうべ第 3 地区本部

カリブ海と大西洋に面する南米ベネズエラ。世界最大級の原油埋蔵量を誇り自然豊かな美しい国が、近年多くの避難民を生み、子どもたちも厳しい状況におかれているという。ベネズエラで何が起

きているのでしょうか。

アジア経済研究所（JETRO）ベネズエラ研究者の坂口亜紀さんをゲストに迎え、神戸市在住で母国ベネズエラのためにボランティア活動をされているイスキエルドさんから母国の子どもたちがおかれている状況について詳しい話を聞きました。

ベネズエラでは 1999 年から国家権力が大統領に集中。経済政策の失敗から経済が破綻。この 10 年間で国民の 1/4、約 800 万人が国外に逃れました。

また、政治対立も深まり、反政府派の抗議行動に対して政府側は軍を投入し対抗。昨年 7 月の大統領選挙では、反体制側の勝利にも関わらず政府側は勝利宣言をし、それに対する抗議行動をしたとして子どもや未成年者を含む 2000 人以上の市民を逮捕・投獄。子どもたちは獄中で虐待など非人間的な扱いを受けました。国際社会などの圧力で徐々に釈放されましたが、いまだに 5 人の子どもたちが拘留されたままです。

今ベネズエラの子どもたちは、情勢不安・食料難・人道危機など国の危機的な状況下で、過酷な日々を送っています。まだ刑務所で拘束されている子どもたちもいます。ベネズエラのことを、子どもたちのことを理解して、他の人にも伝えてもらいたい。子どもたちの速やかな釈放と再び同じ事が繰り返されないこと。イスキエルドさんの切なる願いです。

5

マリールイズさん講演会

子どもたちの未来の話をしよう

～ルワンダを知る

講 師 永遠瑠マリールイズさん
（龍谷大学短期大学部客員教授）

日 時 2025 年 7 月 15 日（火）

会 場 コアキタマチショッピングセンター（コープデイズ神戸北町）

参加者 75 人

共 催 コープこうべ第 4 地区本部 - 平和をつなぐ会

ルワンダは東アフリカにある小さな国で、1 年中温暖で食べ物も豊富です。

1994 年 4 月 100 日間に 100 万人もの命が失われる虐殺が勃発。福島県での技能研修を終えて 2 月に帰国したばかりのマリールイズさんは、幼い子ども 3 人を連れて必死に難民キャンプに逃げまし

た。そして習い覚えた平仮名と福島の人たちの尽力のおかげで家族と共に再来日できました。

福島でお世話になった 82 歳のおばあちゃんが毎朝新聞を読むことに驚くと共に読み書きのできない人の多い母国を思い、教育の大切さを痛感しました。2000 年「ルワンダの教育を考える会」を立ち上げ、学校をつくり、学んだ子どもたちが夢を語るようになりました。ルワンダは今「アフリカの奇跡」と呼ばれています。争った加害者と被害者が互いに赦し合い新たな国づくりに力を注ぎ、その復興の中心になったのは女性の活躍です。今大臣の 52% は女性です。

学校では平和について伝えています。被爆樹木を植え、折り鶴の折り方も教えています。戦争がないことは当たり前ではなく、次の世代に伝え続けなければなりません。子どもが、学び、安心して眠り、お腹いっぱい食べ、夢をめざす。そうあってほしい。マリールイズさんの思いが伝わった 1 時間でした。



＊この講演会は「コープこうべ平和のキャンパ」の助成を活用しています。

ユニセフ募金 Donations For Unicef

■ 通常募金

通信欄記載事項	振替口座	手数料
K1-280 兵庫	00190-5-31000	免除

■ 緊急・復興募金

	通信欄記載事項	振替口座
ミャンマー地震	ミャンマー K1-280 兵庫	00190-5-31000
ガザ人道危機	ガザ K1-280 兵庫	00190-5-31000
ウクライナ	ウクライナ K1-280 兵庫	00190-5-31000
自然災害	自然災害 K1-280 兵庫	00190-5-31000
人道危機	人道危機 K1-280 兵庫	00190-5-31000
アフリカ栄養危機	アフリカ K1-280 兵庫	00190-5-31000
シリア	シリア K1-280 兵庫	00190-5-31000
ロヒンギャ難民	ロヒンギャ K1-280 兵庫	00190-5-31000

*共通口座名義：公益財団法人 日本ユニセフ協会
 *郵便局窓口から専用振込用紙を使って振り込むと手数料は免除されます。専用振込用紙は事務局にありますのでご連絡ください。



いつでも
どこでも
気軽に募金

<https://www.unicef.or.jp/sp/>

ユニセフ兵庫ニュース Wish vol.77

ユニセフ兵庫ニュース Wish

2025 年 9 月発行

発行：兵庫県ユニセフ協会

住所：〒658-0081

神戸市東灘区田中町 5-3-18

コープこうべ生活文化センター 2F

電話：078-435-1605 (平日 10:00 ~ 16:00)

FAX：078-451-9830

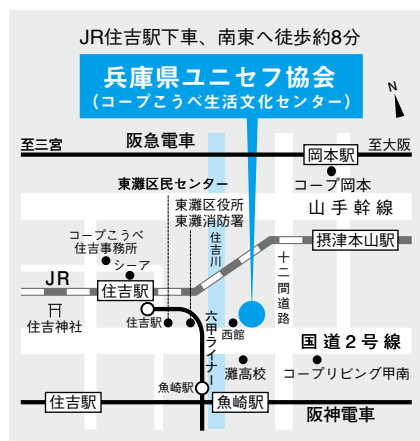
E-Mail：h-unicef@kobe.coop.or.jp

●最新の情報はホームページで

<https://unicef-hyogo.jp/>

兵庫 ユニセフ

検索



Join Us 主催イベント

2025 国際理解講座③ 国際平和ウィーク アフリカデー

日時 9月20日(土) 11:00 ~ 16:00
会場 玉津のつどい場たまろっと
共催 コープこうべ第5地区本部
協力 NPO法人ひと・コネクト兵庫
後援 兵庫県国際交流協会、JICA 関西、神戸市教育委員会、神戸市教職員組合

西のブルキナファソ、東のルワンダ他、広いアフリカの「今」「未来」の話、躍動する太鼓ライブ、ワークショップや遊びを体感する一日。



各日程等は変更になることがあります。
 詳細はホームページをご覧ください。

参加費
無料

2025 国際理解講座④ ウクライナ戦火の子どもたち、市民はいま

日時 10月12日(日) 13:30 ~ 15:30
会場 神戸市教育会館 6 階ホール
講師 玉本英子さん
 (アジアプレス所属
 ジャーナリスト)
定員 100 人
後援 神戸市教育委員会、神戸市教職員組合、コープこうべ第3地区本部



今も戦闘が続く、遊びや学びの機会を奪われ、命を脅かされている子どもたち。毎年現地取材を続ける玉本さんが戦争の現実を伝えます。

2025 国際理解講座⑤ アフリカ： 国際政治の最前線

日時 11月22日(土) 13:30 ~ 15:30
会場 神戸市教育会館 6 階ホール
講師 大津司郎さん(アフリカジャーナリスト)
 甲斐信好さん(拓殖大学副学長)



定員 100 人
後援 神戸市教育委員会、神戸市教職員組合、コープこうべ第3地区本部

国際政治学者の立場から甲斐さんが、長年の取材経験から大津さんが日本の今にもつながる「アフリカの最前線」について語ります。

参加申込みはホームページ上の
 申込みフォームでも受け付けています。

お問い合わせ

TEL 078-435-1605

※国際理解講座③④⑤は、公益信託兵庫県婦人会館ユネスコ基金からの助成を受けて実施します。

News お知らせ

第45回ハンド・イン・ハンド募金活動

日時 12月21日(日) 11:00-12:00
会場 阪急塚口駅前、西宮北口駅前、JR 住吉シーア JR 元町大丸前、JR 明石駅前、JR 姫路駅前(予定)

一緒に参加しませんか。

第 24 回ユニセフのつどい

日時 2026 年 3 月 7 日(土)
会場 コープこうべ生活文化センター 2F ホール
 ユニセフのつどいは、兵庫県ユニセフ協会のお祭りです。お気軽にご参加下さい。

Booth 出展参加

10月4日(土)	サニーフェスタ 2025
10月18日(土)	姫路市医師会看護専門学校文化祭

日本ユニセフ協会
 賛助会員募集中

ユニセフひょうご
 サポーター募集中